

2016年度 第6回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（確定稿）

- 開催日時：2017年3月14日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：阿部恵子、五十嵐強、辻信明、渡辺裕一 <以上4名、敬称略、五十音順>
- 出席職員：小平福祉活動推進課長、飯塚ボランティア・市民活動センター係主任、
嶋田主事、長山コーディネーター

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2017年1～2月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告(2017年1～2月)
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績(2017年1～2月)
- 資料 4：2016年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（2017年3～4月）
- 資料 5：第14回ボランティアのつどい 参加者アンケート集計結果
- 資料 6：第14回ボランティアのつどい 参加団体アンケート集計結果
- 資料 7：2016年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 8：ボランティア・市民活動推進事業 平成29年度事業計画（案）
- 資料 9：平成29年度 ボランティア・市民活動推進事業 事業費（案）
- 資料 10：平成29年度 ボランティア・市民活動センター係 事務役割分担表
- 資料 11：西東京ボランティア・市民活動センター事業・事務執行計画
- 資料 12：平成29年度 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会委員留任予定者名簿
- 資料 13：平成29年度 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会委員内諾者名簿
- 資料別紙：ぼらんていあ倶楽部 第95号
- 資料別冊：2016年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

1. 報告事項

(1). 業務報告（2017年1月～2月）について

○事務局より資料1～3に基づき、2017年1月から2月末までの業務について報告を行う。

○質疑および意見

委員：ボランティア登録者に登録確認をすることで登録人数が減少する時期はあるのか。

事務局：5月ごろに登録確認を予定しているため、その時に減少する可能性はある。

委員長：複数の人から、過去に社協のとある部署で相談をした際に、対応が悪かったと聞いた。職員は悪気はないと思うが、非常に冷たい対応をされたと受け取ったようで、未だにその印象を強く持っているとの話しである。相手の立場に立つことができれば防げることだろう。

委員：そもそもボラセンがボランティア活動の窓口になっていることを知らない方が多い。

コミュニティの力になりたいと考えて「何かやりたい！」と思っている人たちは結構いる。

委員長：それに加えて、ゆめこらぼとボラセンの違いをわかっていない方も多い。

団体の紹介はゆめこらぼ、個人の方はボラセンにという連携があれば良い。

事務局：単純に対応が悪かったと思う。今はないことを祈るしかないが、このようなことがあった

ことをその部署の職員には伝えておく。

委員長：別件だが、先日ボラセンに連絡した際に、体調を気遣う一言があり、とても嬉しかった。これはボラセンの感覚として身に備わっているのだろうと感じた。

(2). 業務予定 (2017年3月～4月) について

○事務局より資料4に基づき、2017年1月から2月末までの業務予定について報告をする。

○質疑および意見

委員長：四圏域の話し合いというのは、福祉活動計画の整備ということか。

事務局：ふれまちとほっとネットの圏域担当が、一堂に会して四半期に1度、集まって打ち合わせをするものがこの話し合いになる。まだ始めたばかりで、ボラセンだけでなく、りんくからも参加し、関わる部署が集まっている内部の会議である。

委員長：良いことではないかと思う。

事務局：やること自体が難しい現状もある。会議がかなり多いので開催する時間も難しい。

委員：それぞれの事業で行政の管轄が違うことも問題なのか。

事務局：そのようなことはない。

委員：ボラセンがプラットフォームになり、各事業にボランティアを紹介していけば良いと話したことがあるが、どこの活動にも見たことがある方が多く参加している。一番肝心なことは4つの圏域でボランティアをしている方々が集まれる場を提供することではないか。そのようにしていったほうが活動の実績が出てくると思われる。

事務局：ボラセンがプラットフォームになるということはずっと言われてきており、それができればと思っている。ただ現在は、それぞれの事業でボランティアの確保を行う仕組みになっている。圏域ごとで集まるなら、ボラセン発で行うべきだろうと考える。

委員：社協の事業なのにどうしてみんなバラバラでやっているかがわからない。少なくとも、ふれまち、ほっとネット、ボラセンはある程度一緒にできるのではないか。ほっとネットからの依頼はほっとネット、ふれまちから依頼があればふれまち、ボラセンから依頼があればボラセン。何がどう違うのかわからないと、活動している人たちはみんな思っている。

委員長：3係合同の講座で各事業の説明をしているが、参加者である聞く方には何がどう違うのかわかっていない。説明する方が整理できていないのだろう。福祉活動推進課に3つの事業が揃っているわけだから、ボラセンがプラットフォームだけでなく、コーディネート機能を果たすことが必要ではないか。ボランティアと言ったらボラセンがやると一般市民は思っている。まとめる機能をボラセンが持ち、とりあえず力を付けていくのはどうか。

委員：お互いの立場で話をしているだけで、来ている人たちのための話しではなくて、自分たちの立場の話をしているだけだったのではないか。水やりの時がそうだが、1つの事にボラセンやほっとネットの人が来る、そのようなことができるのだから、もう一歩進むことができないのか、そうでないと活動する人たちが萎えてくる。

委員長：4圏域の話し合いは来年度以降もぜひ続けて行ってほしい。

委員：何か障害になっているのか。

事務局：委託の事業というのが大きい。りんくやほっとネットは社協の事業でなく、市の事業であるという意識が市にある。

委員：そのような話を聞いているから、何がネックになっているかを冒頭に質問した。

事務局：場所が点在しているというのもネック。たまたま、ほっとネット田無は事務所が同じなので連携は取りやすいが、離れている部署と連携を取ることが難しい。また、自分の業務には集中するが他が見えづらくなっているのも事実。時には職員同士がぶつかることもある。

委員：職員がぶつかることは運営の目的が違うからしょうがない。だけど、ボランティアの人たちには関係ないことだろう。助け合おうと思っている気持ちはみんな一緒である。

委員：以前にも出たが、ボランティア登録の用紙を共通化して、どんなボランティアをやりたいというチェック項目にりんくやほっとネット、ふれまちをチェック項目に入れて行えば同じ受け付けでできて良いのだが、それも難しいというように聞いている。

委員：それが社協の立場としては難しいと思うが、表向きはともかく、活動する人たちをどう集めて、それをどう紹介していくかを行政とは違った観点でできれば良いのでは。

委員：行政からのチェックが入るのか。

委員：用紙を共通化したら言われる可能性はあるだろう。

事務局：ボラセンでほっとネット登録はできない。ほっとネットの登録講習を受ける必要もある。

委員：りんくの支え合いも講習を受ける必要がある。表向きはみんなそうだろう。社協は一つだから何かできるのではないか。

委員：チェックを受けてもらうタイミングを変えて、講習を受けるとりんくのところに判子が付けられて、だんだん他の活動もできるように集約されるというのも良いのではないか。

事務局：スタンプラリーのようなものか。

委員：そのようなことは可能か。

事務局：毎年5月に登録確認をしているが、いま現在は申告制なので、どのような活動をしているのかというのは記述で書いてもらっている。それについては把握している。

委員：文章で書いているということか、チェック欄にはなっていないのか。

事務局：文章で書いてもらっている。本人には見せてはいない。

委員：ボランティア保険に入っているか入っていないかも、どの団体で入っているかわからないのではないか。

事務局：西東京市での加入手続きをした場合は、ボラセンで窓口になっているので、どの団体で入っているかは把握できている。ただ、他の自治体で入っているとわからない。ボランティア保険に関してはある意味プラットフォームができています。

委員：ボランティア保険とは別に、ある一定の時期に、承諾を得て団体名簿提出してもらい、他の活動と突合すれば良いのではないか。突合して、チェックして判子を押すことができれば良いのではないか。ボランティア保険の受付の時に併せて承諾は得られないだろうか。

事務局：個人情報ということで出してもらえない可能性がある。今現在も、遠回りして出してもらっていて、全員が納得して出してもらうのはなかなか厳しい。

委員：個人情報というのはわかるのだが、全員をボランティア登録者とするために何が壁になっているのだろうか。ボラセンから依頼があっても断ればよい。

委員：組織はちょっと違う部分があり、それがネックになっている。現役の時代はそれが当然と思っていたが、コミュニティで生活するうえでそれがネックになってしまうとは思ってもみなかった。いま、それがあまりにも障害になってしまっている。

委員：ほかの市町村の人に会うこともあるが、どこの市町村も同じような状況のようだ。

委員：そうすると分けて頼んでくる行政が悪いとなってしまう。そうなのかもしれないが、行政

のせいにしては変わらない。何か考えなくてはいけない。

委員：行政がどうのこうのと言っても社協は難しいだろうが、社協としてやれることはあるのではないだろうか。もう一歩進めばよいのではないか。助け合いはふれまち、ささえあいはりんく、言葉で言えば違うが、内容は何も変わらないと思う。

事務局：ささえあいは高齢者の見守りで随分前から市が行っている事業になる。

委員：高齢者なのか、年齢に関係ない助け合いかの違いはあるだろう。ただ内容的に言うとは変わらないように思う。社協の中でうまくやればボランティアをもっと有効に活用できるのではないか。20万の人口で、4000人に近いボランティアがいるのはすごい力だと思う。

事務局：厳密に言えば、他市の方の登録も随分ある。西東京市で手続きをしている他市の方もいる。

委員：ボランティア登録をしても声を掛けられない人が多くいる。声かけられるかかけられないかは、自分の活動する意欲にとってかなり大きなウエイトを占める。一括管理していれば非常に声をかけやすい。ボラセンがそのような人材を一括管理して紹介すれば良い。声がかかけられないことほど寂しいことはない。

委員：声かける方は申し訳ないと思っているが、声をかけられる方は待っている状況。このギャップがいつももったいないと思っている。声かけられて嫌な思いをする人はそんなにいないと言われている。

委員：声かけられるというのはありがたいこと。声かけられない人から見ると、1年、2年たっても声がかからないというのは寂しい話しだろう。

委員：電話入れたら日付を入れてチェックや記録を残すのも1つだろう。

事務局：登録している人から見れば、登録したのという思いを持つだろう。

委員：確かにこの人では無理だろうと思うことはあるだろうが、その中で、どのように声をかけるかを考えてほしい。

(3). 第14回ボランティアのつどいの実施報告について

○事務局より資料5・資料6に基づき報告をする。

○質疑および意見

委員：3年間続けて参加したが、今までと違って格段に人が多く、賑やかであった。また中に入って興味を持って聞いてくれる方が多かった。PR効果があったのではないと思う。一般市民にこういうボランティアがあると知ってもらえるというのは良かった。

事務局：職員からの発案で様々な取り組みをしたことが効果があったと思われる。

委員：具体的にはどんな取り組みをされたのか。

事務局：高齢者施設への周知により関係者が来場されたこと、賑やかになるようなブースの配置の工夫をしたこと、販売スペースと展示スペースを分けたこと、総合福祉センター周辺世帯に2,000枚のチラシ配布をしたことで家族連れの来場者が来たことなどが挙げられる。

委員：チラシの配布はどのようにしたのか。

事務局：事務所の隣にある作業所に業務委託して配布をした。実行委員や参加者、新しく加わった方、職員など全ての方の協力で成功を収めることができた。

委員長：ボラフェスは例年になく温かい雰囲気でもとても良かった。昨年まではお客待ちと言った感じであった。Nフェスとボラフェス一緒にやっていく意味もあるが、Nフェスとボラフェスの違い、ボラセンのやっている意味を捨ててほしくない。形式にとらわれず、本来のボ

ラセンのやる意義を明確にすることが大切だろう。

委員：今までは、「この展示がこれで終わっちゃうの?」、「せっかく作ってもこれだけで終わりなの?」という感があった。今年はこれだけ見てもらって、これだけ話しができ、これだけ質問されたら良いと思った。

委員長：人数の問題ではないと思う。ここで開催しているんだとわかれば、社会に需要があり、求められているからすそ野は広がっていくだろう。

(4). スキルアップ研修「高齢者うつと高齢者施設でのボランティア活動」の実施報告について

○事務局より追加資料に基づき報告をする。

○質疑および意見

委員長：このテーマにした経緯を教えてください。

事務局：依頼の中で高齢者の話し相手や傾聴の依頼が増えてきている。その中で対象者がうつ傾向にあるという話しが多くなってきているという実感があった。関わってもらってボランティアに理解を深めてもらった上で活動をしてほしいと思い、実施に至った。

委員長：認知症とうつは、いま問題になっていることが多い。このようなテーマを取り上げているということからも、その課題を知っているのだと思ったので聞いてみた。

2. 審議事項

(1). 2016年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

- 出席者が議決に必要な定足数に満たないため、後日書面議決書にて議決を行うことを確認する。
- 2016年度第5回運営委員会の記録について確認を行い、出席者4名から承認をいただく。
→後日、書面議決書にて、残りの5名からも承認をいただいたので、確定稿とする。

3. 協議事項

(1). 平成29年度事業計画・予算(案)について

○事務局より資料8から資料11に基づき説明を行う。

○質疑および意見交換

委員長：運営委員会が承認・決定機関なのか、提案・諮問機関なのか、運営委員会の位置付けについて確認をした方が良い。

委員：以前に職員から承認・決定機関でないとされたことがあるので、運営委員会は諮問機関であろう。

委員長：他の区市町村では決定機関となっているところもある。西東京では、運営委員と事務局の話し合いによって決まるのだろうが、市民も一生懸命やらないとダメであろう。

委員：活動の実態が伴わないと社協の存続そのものが成り立たないのではないかと。

委員長：一方、西東京市は市民活動が盛んだとも言われている。

委員：新規のものや企画ものにおいては西東京市社協はずいぶん評価されていると聞いている。しかし、それを支えるボランティアや活動基盤などの実態は伴っているのだろうか。

委員長：他社協の活動形態との比較があった。市民の活動も熱心な方が多い。ただ情報として挙が

ってこない。行政とは別に動いている感じだ。

委員：活動する側が行政に対して危機感を持っているという話を聞いたことがある。

委員：前回の記録にある重点取り組み事項に対する意見は不採用だったのか。

事務局：他部署との調整が難しかった。中身としては実施していく予定である。

事務局：事業計画・予算（案）に関しては、審議事項でなく協議事項という理解でよいか。

委員長：それで良い。

委員長：これまで何年か議論してきたボラセンの3つの機能について、ボランティアのつどいをどうするのかなど、実際にやっている活動がこの中に出てこないのが不安である。計画書があれば、何をやってその結果良かったのか悪かったのかが見えるようになっていない。具体的に効果があったことについて見えるようになっていないと無駄になってしまう。

委員：資料作りに苦しむようなら、簡単でよいので、結果とこれを踏まえてどうするのかを箇条書きで簡潔にまとめる時間を作ってほしい。

委員：今の民間企業はみんなそうだ。資料作りでパソコンに向かっているだけでは評価されないとされているそうだ。今の民間は結果がどうなるのかだけが問われる。

委員長：わんぱく相撲は定例的に関わるのか。

事務局：過去にはかかわっていた時期があったので、元通り関わるようになった形である。

委員長：青年会議所とのつながりができなかったのも、つながるようになれば良い。

(2). 2017年度運営委員について

○事務局より資料12・資料13に基づき説明を行う。

○質疑および意見交換

委員長：これでほぼ決定か。

事務局：ほぼ決定である。登録ボランティアからあと一人くらい入って欲しかったが、高齢で夜は難しいということで断られたケースもあった。

委員：民生委員は選出できないのか。理由を教えてください。

事務局：社協の各種委員の選出について民生委員協議会からは限られたものに限定されてしまった経緯があり、ボラセンの運営委員会に入っていただくことができなくなった。

委員：りんくには民生委員が入っているが。

事務局：りんくは行政の事業になるので選出できていると思われる。

次期運営委員会は7名でスタートはするが、途中から入っていただくことも可能と思われるので、もう少し検討をしていく予定である。

4. その他

(1). 次回運営委員会開催日程について

■開催日時：2017年5月9日（火）18時30分～20時30分まで

■開催場所：田無総合福祉センター4階 第3会議室

●以上をもって、2016年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。